

商店街と宿泊施設に注目した、宗教都市における教勢の変化に伴う中心市街地の変容に関する研究

- 新宗教都市天理を対象として -

Study on the Urban Transformation of City Centers with the Change in Religious Momentum in Religious City : Focusing on the Shopping Street and Accommodations

- A Case of Tenri City, Which Is Known for New Religious City -

町田 匠人*・真野 洋介**
Takuto Machida*, Yosuke Mano**

Tenri city, which is known for new religious city, was born in late 18th century and has transformed until now. Transformation of religious city is affected by religious momentum. For example, the number of believers and financial power. Tenri's urban transformation has three characteristic stages. First stage is from 1900s to prewar days. Many believers came to Tenri, and many shops and facilities got together in Tenri. Tenri became the new religious city then. Second stage is from the end of WW II to 1980s. Tenrikyo made many facilities and the city was developed. The city started to attract not only believers but also non-believers. Third stage is from 1990s to now. Tenri's momentum is decreasing, and most of new movements belong to the general citizens now.

Keywords: religious city, new religion, Tenrikyo, religious momentum, urban transformation

宗教都市, 新宗教, 天理教, 教勢, 都市変容

1. 序論

1-1. 研究の目的

宗教に根ざした都市は、我が国においても数多く存在する^①。「一九世紀前期以降現在に至るまで、従来の既成宗教の伝統とは別個に、民衆自身によって創始された宗教運動をさすもの」と定義される^②新宗教は、宗教を核とした都市の形成が短期間に凝縮され、中心市街地内に信者詰所や宗教施設等が面的に広がり、その機能が散りばめられる。このような新宗教都市の代表例として天理市が挙げられる。天理のような、近代以降独特な空間構成とともに形成されてきた新宗教都市も、高齢化や信者の減少等、現在大きな転換点に直面しており、都市再生への多様なアプローチという視点からも、独自の都市変容や宗教都市ならではの店舗単位の取り組み等を検証する必要がある。本研究では、以下の2点を目的とする。

- ①信者数や宗教施設の建設状況、資金力といった天理教の教勢の変化と、民間や行政が整備主体の鉄道や電話線、天理教が整備主体の総合病院、などの公益施設の整備との関係性を整理することで天理の都市変容の特性や転換点を分析し、天理の都市変容における時期区分を明らかにする。信者や天理市民、来街者、商店主等に対するヒアリング調査をもとに、時期区分の特性を考察する。
- ②定めた時期区分をもとに、天理市内の宿泊施設や、中心商店街である天理本通り商店街について、近年の特徴を考察することで、天理教の衰退に伴って現れた、天理の中心市街地に関する新たな特徴を明らかにする。

1-2. 研究の位置付け

天理の新宗教都市としての特性を明らかにする研究^{③④⑤}や天理の詰所に注目した研究^⑥、中心商店街に注目した研究^⑦など天理を扱う研究は多くあるが、本研究は門前町と

して発展した天理^⑧の、宗教が土地に根ざしてから現在までの都市変容全体を、信者数や詰所の建築数などの統計を用いた定量的な視点と、ヒアリング調査を用いた定性的な視点の双方から分析・整理している点が異なる。建築学や都市学の観点から天理の宗教都市の特性を考察した研究としては五十嵐 (2001)^⑨を代表とする五十嵐太郎氏の研究成果が挙げられるが、宗教施設を中心に考察がなされており、本研究で扱うような商店街や民間の宿泊施設との関係には注目していないという点で、本研究は独自性を持つ。また、教勢に伴う中心市街地の変容については、教団と住民との関係性から土地利用の変化を明らかにする研究^⑩などがあるが、本研究では宿泊施設経営者や商店主、店舗利用者等の多様な主体が持つ教勢に対する意識に着目して中心市街地の空間変容の考察を行う点で独自性を持つ。

1-3. 研究の方法

本研究の対象地域は、教会本部、天理駅、宗教施設等が広がる中心商業地及びその周辺 (図1) とする。本研究では、中心商業地及び教会本部に徒歩でアクセス可能な図1に示す地域を天理の中心市街地として定義する。2章では文献資料を用いて宗教施設や都市基盤の整備などの天理の都市の変容に関わる出来事を把握し、それに対して信者数や天理教の整備した宗教施設の建設数、天理教の歳入などの定量的な変化と重ね合わせることで、市街地変容に関する天理教の動向を整理する。3章では天理市外からの来訪者が利用する宿泊施設に注目することで、天理の宿泊業の役割変化から市街地変容について考察を行う。具体的には、中心市街地で営業している宿泊施設関係者へのヒアリング調査と文献調査を実施し、昭和初期から現在までの宿泊施設の役割の変化を明らかにする。4章では中心市街地の中でも天理教教会本部への参道の役割も担う天理本通り商店

* 学生会員 東京工業大学環境・社会理工学院(Tokyo Institute of Technology)

** 正会員 東京工業大学環境・社会理工学院(Tokyo Institute of Technology)

街に注目し商業の変容を明らかにする。前半では既往研究の整理や住宅地図を用いた店舗構成の変容から商店街の特性を把握する。後半では、商店街の歩行者や商店主、従業員へのヒアリング調査を実施し、近年の商店街の実態や変化を整理する。この結果より、天理教が店舗に及ぼす影響を明らかにする。5 章では以上の結果を踏まえて天理の教勢の変化に伴う中心市街地の変容について考察を行う。なお、本研究で用いる特別な用語の定義・説明は表 1 に示す。

2. 天理の都市の時期区分

2-1. 天理教に関する統計の整理 (図 2)

天理教の教祖である中山みき氏が現在の天理教教会本部の地点を、天理教の聖地である「ちば」と定めたのは 1875 年である。従って、現在の天理の地が宗教を核として発展したのは、「ちば」が天理の地に定まってからの 140 年ほどに凝縮される。このため、都市の発展当初から現在までの都市変容について、地図や統計データなどの定量的な資料を用いて考察を行えるため、それらを整理する。ここでは、天理の都市の発生から現在までの信者数の変遷³⁾に、天理市内に建設された信者詰所の建設数⁴⁾や天理教がお供え金として得た歳入額の変遷をそれぞれ重ね合わせた (図 2)。その結果、①信者数が激減し詰所の建設数も 0 になる 1940 年頃、②1960 年以降上昇傾向にあった信者数やお供え金の歳入の統計が減少に転じた 1990 年頃、の 2 つの時点に境に変化が確認できる。

2-2. 天理の都市の出来事の整理

天理教の教勢の変化に対して、天理市における社会的状況がどのように変化したのかを把握するため、天理における施設の設立や行事の開始・終了の時期を文献資料を用いて年表に整理し、都市変容の指標とした。(表 2)。表より、①1940 年頃の教勢の急激な落ち込みは戦時中の宗教弾圧¹⁰⁾による宗教活動の停滞があったこと、②1990 年頃からの教勢の衰退は教祖百年祭執行後の反動や地下鉄サリン事件による新宗教に対する社会の警戒感の決定的な強まり¹¹⁾による新宗教離れがあったこと、がそれぞれ要因となっていることが考えられる。

2-3. 天理の新宗教都市としての時期区分

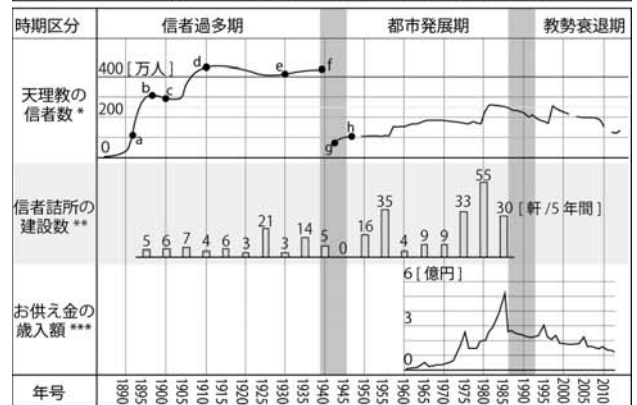
以上より、天理教の教勢と市街地変容の関係は、①と②を境に 3 つの時期区分に分けることができる。まず、第一期である「信者過多」期では、急激に成長した天理教に対して天理市の鉄道や電気といった公益施設の整備が間に合っておらず、それらが順次整備された。続いて第二期である「都市発展」期では、宗教施設を一挙に収容できる「おやさとやかた⁶⁾」や詰所の建設が進んだ (図 2、3)。また、高校や大学、総合病院といった生活に関わる施設も完成し、教勢に見合った宗教都市が形作られた。その後、現在に至る第三期の「教勢衰退」期では、教勢が衰退し始めた天理では、2005 年を最後に「おやさとやかた」新規建設もなくなり宗教都市としての更新は下火になった。また 2019 年に天理教の行事の一つである「こどもおぢばがえり」(以下



*「天理市都市計画マスタープラン」(2013 年 4 月作成) 174 頁 まちづくり方針図より
図 1 対象とする天理市の商業地と宗教施設・宿泊施設の立地

表 1 用語の定義・説明

用語の定義	用語の説明
宗教都市	都市に宗教が根ざし、そこを中心に門前町のように発展した都市と定義する
宿泊施設	本研究では、特記がない場合「宿泊施設」は信者詰所以外の宿泊施設を指す
信者過多期	天理に天理教が生まれてから戦前までの時期を信者過多期と定義する
都市発展期	戦前から 1980 年代の天理教施設建設が盛んな時期を都市発展期と定義する
教勢衰退期	1990 年代以降、天理教の教勢衰退が見られる時期を教勢衰退期と定義する
KOG	毎年夏に開催される天理教行事「こどもおぢばがえり」を KOG と略記する
新宗教	日本では幕末維新期以降に誕生した、新しい宗教のこと
天理教	教祖中山みきが 1838 年に起こした新宗教
ちば・おやさと	教会本部内の天理教の聖地を「ちば」、周辺を「おやさと」と呼ぶ
信者詰所 (= 詰所)	天理教の大会毎に保有・管理する天理市内の信者向け宿泊施設
母屋	天理教管理で建設され、各教会にあてられる大規模信者詰所
天理本通り	天理駅前から天理教教会本部へ伸びる約 1km の参道兼中心商店街
帰参 (= おぢばがえり)	天理や教会本部を訪れることを指す
おやさとやかた構想	2 代目真柱 (教会本部を統理する役職) が発表した宗教建築計画
月次祭	教会本部では毎月 26 日に執り行われる特別なおとめ



* ~1946 年の信者数: 辻井和正 (1994): 天理教の教勢 100 年 - 統計数字から客観的にみる - 天理大学おやさと研究所第 4 回伝道研究会 (1994 年 7 月 18 日) 資料より a-h の年次別信者数をまとめたもの。(右下表参照) 1949 年 - の信者数: 文化庁「宗教年鑑」参照
** 『みちのとも』(道友社) 立教 124 年 5 月号 (1961) から立教 176 年 5 月号 (2013) を参照
*** 天理おやさと研究所 (1989)『改訂 天理教辞典 教会史篇』より作成

図 2 天理教に関する統計の年次別整理

表 2 天理の都市に関する出来事年表

信者過多期 (都市の誕生 ~ 戦前)	都市発展期 (戦後 ~ 1980 年頃)	教勢衰退期 (1990 年頃 ~ 現在)
1895 信者詰所の始まり 1898 奈良鉄道丹波駅開業 1900 天理教開校 1908 天理中学設立認可 1922 現近畿日本鉄道が大坂・丹波市間に鉄道を開業 1924 天理教電気部設立 天理に電話が通 1925 天理図書館開設 1930 天理参考館 (博物館) 開館	1939 第二次世界大戦開戦 1945 第二次世界大戦終戦 1949 天理大学開校 1953 おやさとやかた構想発表 1954 こどもおぢばがえり開始 1955 おやさとやかた開き 1964 天理駅が現在置へ移動 1966 憩いの家 (総合病院) 開所 1974 天理教付属高校新設	1986 教祖百年祭執行 1995 オウム地下鉄サリン事件 2005 天理教学校園高等学校開校 (最後の「おやさとやかた」) 2019 KOG/バレー終了 2023 天理教学校園高等学校閉校 (予定) 『ジュニア年表 天理教の百三十年』(2016) 道友社より作成*

* 第二次世界大戦、オウム地下鉄サリン事件、2017 年以降の出来事はインターネット調査より作成



図 3 おやさとやかた構想発表後の建設の状況

KOG と略記する) の目玉イベントであるパレードの打ち切りや 2022 年に天理教学校園高等学校の閉校の決定など、天理教の文化的活動も縮小の傾向にあると考察できる。

3. 宿泊施設の変遷から見る都市の変容

3-1. 天理教における帰参の重要性和宿泊施設のもつ役割

天理教の祭儀の特徴として、通常は日本・世界各地に位置する教会で「天理教の最も重要な祭儀⁷⁾」であるおつとめをする。そして、月次祭や正月などの行事・祭典に合わせて「ぢば」である天理に参拝する「帰参」を行い、教会本部でおつとめをする。したがって日本・世界各地の信者が集まる行事・祭典は、天理の地に大勢の信者が集結する機会であり、その時の帰参者を天理市の宿泊施設や鉄道などの公益施設が受け止められるかどうか、天理教の宗教的特性上、天理の宗教都市としての実態を測る上で重要な指標となる。そこで本章では宿泊施設に注目して、天理の宗教都市としての都市の変容を考察する。

3-2. 現在営業中の天理市内の宿泊施設の整理

天理の宗教都市の特徴として、信者用の宿泊施設である詰所が約 200⁸⁾も街中に面的に広がる(図 1)ことが挙げられる。したがって天理市内の宿泊施設の一部は、信者詰所との棲み分けや共生によって宗教都市独自の特性を有すると考察できる。ここでは表 3 に示す[A]~[F]の 6 サイトを用いたインターネット調査を行い 2019 年 12 月時点で天理市内で営業を行っている全 12 宿泊施設(表 4)を抽出した。表より 6, 7 の観光ホテルや 8~12 のファッションホテルは、図 1 に示す天理市中心市街地の外に位置しているため、教勢の変化に受ける影響が少ないとし本研究の対象から除外する。したがって、教会本部や天理市の中心商業地へのアクセスが良い 1~5 を宗教都市独自の特性を持つ可能性のある宿泊施設と考え、本章の対象施設とする。それらの宿泊施設を施設の種類の室料を参考に X*: 低価格帯ビジネスホテル、Y*: 高価格帯ビジネスホテル、Z***: ゲストハウスに分類しそれぞれの宿泊施設に対してヒアリング調査を行った。

3-3. 宿泊施設へのヒアリング調査結果

X ~Z の各分類の中で、[A]~[E]の検索サイトに掲載数をもっとも多く天理来街者が宿泊施設を探す際に検討する可能性が高い施設として、X はビジネス旅館やまべ、Y はホテルいこい、Z は森のゲストハウスをそれぞれ調査対象とし、主人や従業員へのヒアリング調査を行なった。ビジネス旅館やまべとホテルいこいはインタビュー形式(ヒアリングのための場を設けて行うヒアリング調査)、森のゲストハウスは立ち聞き形式(ヒアリング対象の仕事等に並行して行うヒアリング調査)での調査を実施した。調査を通して表 5 に示すように、宿泊施設は天理教施設を利用する非信者を受け入れる場合や、宗教に直接関係のない観光やビジネスに関連する利用者を受け入れる場合など、非信者を受け入れることが多いと明らかになった。

表 3 宿泊施設の検索に用いたサイト

番号	サイト名	URL	番号	サイト名	URL
[A]	楽天トラベル	https://travel.rakuten.co.jp/	[D]	ハッピーホテル	https://happyhotel.jp/
[B]	Booking.com	https://www.booking.com/	[E]	カップルズ	https://couples.jp/
[C]	じゃらん	https://www.jalan.net/	[F]	タウンページ	https://tp.ne.jp/

表 4 天理市内の宿泊施設一覧

番号	ホテル名	[A]	[B]	[C]	[D]	[E]	[F]	施設の種別	室料	分類
1	ビジネスホテル喜楽荘	○	○	○	○	○	○	ビジネスホテル	一泊 3900 円	X*
2	ビジネス旅館 やまべ	○	○	○	○	○	○	ビジネスホテル	一泊 3500 円	X*
3	ホテルいこい	○	○	○	○	○	○	ビジネスホテル	一泊 5500 円	Y**
4	森のゲストハウス	○	○	○	○	○	○	ゲストハウス	一泊 3000 円	Z***
5	ツバメハウス	○	○	○	○	○	○	ゲストハウス	一泊 3000 円	Z***
6	奈良健康ランド 奈良プラザホテル	○	○	○	○	○	○	※6, 7 の 2 宿泊施設は郡山にから車で 5 分に位置する温泉と大規模な駐車場を備えた観光ホテルである。		
7	グランヴィリオホテル奈良和蔵	○	○	○	○	○	○	※8~12 の 5 宿泊施設は郡山にの周辺に集積するファッションホテルである。		
8	ホテルグレイス									
9	郡山フラワースタイル		○	○	○	○	○			
10	ホテルセリヌ					○	○	※1~5 の施設における室料は、全て 2019 年 12 月時点での、宿泊施設の公式ホームページに記載のものである。		
11	Bora Bora 天理					○	○			
12	BEARS					○	○			

表 5 宿泊施設へのヒアリングについて

ヒアリング条件(調査は全て 2019 年に実施した)

分類	宿泊施設名	創業	調査日	ヒアリング相手・形式
低価格帯 ビジネスホテル	ビジネス旅館 やまべ	1980 年頃*	11 月 26 日	ホテル経営者・インタビュー形式
高価格帯 ビジネスホテル	ホテルいこい	2008 年*	10 月 22 日	ホテル経営者・インタビュー形式
ゲストハウス	森のゲストハウス	2018 年 7 月	8 月 3, 4 日	女性従業員(2 名)・立ち聞き形式

ヒアリング結果

ビジネス旅館やまべ (都市発展期後半創立)	天理の低価格帯の宿泊施設であることを売りに、天理市内外から技能系や作業系の労働者を多く受け入れてきた。2 年ほど前までは奈良市の宿泊施設が少なく観光客も来ていたが、近年は五輪に伴うゲストハウスの増加でそうした宿泊客は少ない。
ホテルいこい (教勢衰退期前半創立)	出張などで訪れるビジネス利用客が多く、その多くはリピーターである。天理教関連の宿泊客に関しては、信者は少ないが天理の運営する病院に入院した患者の家族などは多く利用する。土日は一般の観光客の利用も多い。彼らは日本人観光客で、車を利用した奈良県の周遊観光の利便性を求めて利用する場合が多い。
森のゲストハウス (教勢衰退期後半創立)	天理大学の柔道部と繋がりがあり、天理大学柔道部と試合に来るチームに対して天理大学柔道部や柔道連盟が紹介する場合もある。観光客の利用は外国人観光客の場合が多い。天理教信者の利用はほとんどない。

* インタビュー結果より

3-4. 以前の天理の宿泊施設の形態

現存する宿泊施設について 3-3. で創業時期と特徴から都市発展期以降に進出した宿泊施設における特徴の位置づけを整理したが、信者過多期及び都市発展期の宿泊施設については宿泊施設へのヒアリングからは調査ができないため、文献調査及び関係者へのヒアリング調査を行った。

昭和初期(1930 年頃)の天理については、北尾(1931)¹³⁾で「劇場らしい劇場がない。活動の常設館も、演芸場も、料理店らしい料理店、旅館らしい旅館もない。あるものはなんと夥しい学校と、立派な図書館と、途方もなく広い神殿、会所などである」と描かれており、信者過多期前半の天理では宿泊施設は営業していなかったと考察できる。

また都市発展期の天理の宿泊施設については、天理市内で旅館を営んでいた元経営者へのヒアリング調査⁹⁾にて「50 年前までは天理教の信者の宿泊でとても栄えていたが、40 年前くらいから下火になってきた。20 年ほど前には旅館を畳んだ。旅館を畳んだ理由は、詰所の整備で天理教信者の宿泊者が利用しなくなったから。」と回答していて、図 1 に示した都市発展期の詰所の建設を契機に天理に来訪する信者のほとんどが詰所に収容できるようになり、天理における宿泊施設の役割は一般の来訪者に向けたものへと変化したと考察できる。

3-5. 小結

戦前にあたる 1930 年ごろには宿泊施設は営業していなかったとの記述があることから、天理では都市発展期に入ってから帰参者を受け入れるための旅館が市内に営業を始

めたと考察できる。また、戦後の都市発展期に盛んに詰所建設が行われると、それまでに栄えた信者向けの宿泊施設は下火となった。(文献調査、個人へのヒアリング調査より)

都市発展期後半からは、天理の都市発展に伴って観光客やビジネス利用の宿泊客など宗教に依らない宿泊者も現れた。また、天理主導の総合病院や高校・大学等の設備の整備によって、病院のお見舞いのために来街する人や天理のチームと試合をするスポーツ選手など、天理独自の宿泊客も宿泊施設を利用するようになった。日本人観光客やビジネス利用の宿泊者はホテルに、外国人観光客はゲストハウスをそれぞれ利用する傾向も明らかになり、天理における宿泊施設の需要は多様化していったと考察できる。(宿泊施設へのヒアリング調査より)

以上の結果を踏まえて宿泊施設利用者の特性の変化から中心市街地の変容を考察する。天理の宿泊施設の役割は、都市発展期にかけて信者向けの役割から非信者に向けた役割へと変化した。信者の利用の減少は、天理教主体の詰所の整備によって天理教が有するの宗教都市の機能が拡大したことが要因である。非信者の利用の増加は、天理が都市として発展し外部への影響力を強めたことで一般の人でも天理の施設等に来訪するようになったことが要因である。このように信者過多期の都市の発展は、天理教信者だけでなく天理教外部の人にも大きな影響をもたらしたと考察できる。

4. 商店街の変遷から見る都市の変容

4-1. 天理本通り商店街の発展と店舗構成の変容

前章では来訪者の変遷から天理の都市の変容を考察したが、都市発展期以降に来訪する「信者」がもたらす中心市街地への影響までは考察は及んでいない。本章では天理の中心商店街である天理本通り商店街の特性を考察することで、教勢の変化に伴い信者が天理の都市の変容に与える影響について明らかにする。本章前半で扱う商店街の店舗構成から商店街の特性を知ろうとする先行研究は伊藤・梅田(1967)³⁾、桑原(1970)⁴⁾、角(2009)⁷⁾がある。本研究ではこれらの研究に加えて、都市発展期までの天理の都市の発展の様子を明らかにする研究¹³⁾や、信者過多期当時の天理本通り商店街に関する記述や写真をもとに、天理の都市の誕生から今までの天理本通り商店街の発展拡大及び店舗の変容を明らかにする。図4より、信者過多期の天理本通り商店街の様子を読み取る。1912年の記述では都市としての開発が進んでいない天理本通りの様子が読み取れる一方で、1917年や1926年の写真からは天理本通りが商店街として発展している様子が描かれている。図5では西田和夫(1961)¹⁴⁾の347頁第二図をもとに天理本通りの開発時期を整理した。1868年には図中の回付近でしか開発が行われていなかった天理本通りは1922年ごろには回～回りのほとんどの地域で開発がなされ、1957年には商店街全体が開発済みになった。したがって、天理駅の移動前には天理本通り全体が商店街としての機能を有していたと考察できる。



図4 信者過多期の天理の様子



図5 天理本通り付近の都市発展の時期

表6 過去の天理本通り商店街の業種別店舗構成

伊藤・梅田(1967)	桑原(1970)	角*(2009)			
調査年記載なし	調査年記載なし	調査年・・・・・・	1977年	1989年	2008年
<店舗構成>	<店舗構成>	<店舗構成>			
1位 衣料品店 44店	1位 衣服・雑貨店	飲食料品小売店	31[2]	33[2]	27[3]
2位 呉服衣店 39店	2位 土産物店	衣服小売店	37[1]	37[1]	37[1]
3位 神具・神衣	3位 飲食店	靴・かばん小売店	14[4]	11	12[4]
・土産物店 37店	4位 食料品店	神具小売店	7	8	9
4位 家庭装飾	5位 神具・装束店	土産物小売店	14[4]	15[4]	12[4]
・日用品店 29店	※天理第一ビルの	医薬品・化粧品小売店	8	12	11
5位 飲食店 17店	店舗は各店舗独立	書籍・文具小売店	10	13[5]	9
6位 娯楽用品店 44店	とみなさない	その他の小売店	43	42	30
その他 44店		飲食店	21[3]	25[3]	28[2]
		サービス業	9	6	9
		その他	15	8	6
		空き店舗・更地・不明	14	14	34
合計 222店		合計	223	224	224

※筆者名(刊行年)で論文を記載。それぞれ3), 4), 7)の各論文より作成。本研究では天理第一ビル内の店舗は取り上げないため、商店街に面するビル外の店舗についての店舗構成を取り上げる。

*天理第一ビル内の店舗と2階以上のフロアは除く。上位5業種の店舗数の隣に[]でその順位を示している。

次に商店街がどのように変容したかを考察する。伊藤・梅田(1967)³⁾では1964年の天理駅移動に伴う天理第一ビル創建前の天理本通りの店舗構成、桑原(1970)⁴⁾では天理第一ビル創建後の店舗構成、角(2009)⁷⁾では1977年以降、都市発展期終盤から教勢衰退期にかけての店舗構成がそれぞれ調査されている。店舗構成の内訳をそれぞれ拾い出し、表6にまとめる。本研究では、教勢の衰退が進行した近年の店舗の変遷についても、業種別店舗構成を分析し考察を行う。2013年の『ゼンリンの住宅地図』における営業中の店舗の種類や空き店舗等の状況を表7に一覧にしてまとめた。「店舗の種類」が空欄になっている番号は空き店舗・更地・不明の店舗を示している。表7をもとに2013年における天理本通り商店街の業種別店舗構成を表8⁽¹⁰⁾にまとめる。表6と表8を見比べることで教勢衰退期の商店街の店舗構成の変容を考察する。特徴的な店舗構成の変容として飲食店、土産物小売店、神具小売店が業種にあげられる。飲食店については1967年の伊藤・梅田(1967)³⁾では天理本通り内での店舗構成に占める割合は上から5番目だったが年々順位をあげ2013年には全体1位にまで店舗数を増やした。一方の土産店に関しては、桑原(1970)⁴⁾で第2位の店舗数であったが、角(2009)⁷⁾では4位に転落し、2013年に至っては営業中の土産屋が4軒(その他の業種を除いて

表 7 2013 年時点の天理本通りの店舗一覧

ゾーン	南北	番号	属性	店舗の種類	大分類	新規店舗の種類	ゾーン	南北	番号	属性	店舗の種類	大分類	新規店舗の種類
n	1	1		神具店	小売店		n	2	1	新規店舗	天理大学施設	公共	
		2							2	老舗店舗	定食屋	飲食店	カフェ
		3	老舗店舗	寿司屋	飲食店				3	老舗店舗	クラフトショップ	小売店	
		4	老舗店舗	ギフト・生活用品	小売店				4	老舗店舗	着物	小売店	
		5	新規店舗	居酒屋	飲食店				5	老舗店舗	衣料品	小売店	
		6	老舗店舗	昆布	小売店	介護福祉施設			6	老舗店舗	定食屋	飲食店	
		7	老舗店舗	食料品	小売店				7	老舗店舗	お茶屋	飲食店	
		8	老舗店舗	書店	小売店				8	老舗店舗	金物	小売店	
		9	楽器屋	小売店		9			老舗店舗	印鑑	小売店		
		10	老舗店舗	衣料品	小売店				10	老舗店舗	日用品雑貨	小売店	
		11	土産屋	小売店		11							
		12							12	老舗店舗	おもちゃ	小売店	
		13	老舗店舗	文房具	小売店				13	老舗店舗	和菓子	小売店	
s	2	1	新規店舗	衣料品	小売店	衣料品	s	5	1	老舗店舗	衣料品	小売店	
		2	新規店舗	居酒屋	飲食店				2	老舗店舗	衣料品	小売店	
		3	老舗店舗	喫茶店	飲食店				3	老舗店舗	コンビニ	小売店	
		4	喫茶店	飲食店		4			老舗店舗	雪駄・下駄	小売店		
		5	衣料品	小売店		5			老舗店舗	文房具	小売店		
		6	老舗店舗	書店	小売店				6	老舗店舗	カバン	小売店	
		7							7	老舗店舗	衣料品	小売店	
		8	新規店舗	立ち飲み居酒屋	飲食店				8	新規店舗	靴	小売店	(閉店)
		9	老舗店舗	靴屋	小売店				9	新規店舗	カバン・衣料品	小売店	
		10	老舗店舗	喫茶店	飲食店				10	老舗店舗	寿司	飲食店	
		11	菓子	小売店		11			老舗店舗	定食屋	飲食店		
		12	新規店舗	ケーキ教室	教室				12	老舗店舗	花屋	小売店	
		13							13	老舗店舗	和食・寿司	飲食店	
n	3	1	老舗店舗	食料品	小売店		n	4	1	老舗店舗	食料品	小売店	
		2	老舗店舗	薬局	医療				2	老舗店舗	食料品	小売店	
		3	老舗店舗	服飾雑貨	小売店				3	老舗店舗	カバン	小売店	(閉店)
		4	老舗店舗	衣料品	小売店				4	新規店舗	衣料品	小売店	
		5	老舗店舗	インド料理	飲食店				5	新規店舗	集会所	公共	
		6							6				
		7	老舗店舗	食料品	小売店				7		時計屋/眼科	小売店/医療	
		8	老舗店舗	薬局	医療				8		靴屋	小売店	
		9	老舗店舗	服飾雑貨	小売店				9		衣料品	小売店	
		10	老舗店舗	衣料品	小売店				10	老舗店舗	旅行代理店	仲介	
		11	新規店舗	インド料理	飲食店				11				
		12		衣料品	小売店				12	老舗店舗	文房具	小売店	
		13	新規店舗	結婚仲介	仲介				13	老舗店舗	神具店	小売店	
n	4	1				n	5	1	老舗店舗	書店	小売店		
		2							2				
		3	老舗店舗	焼き鳥	飲食店				3	老舗店舗	文房具	小売店	
		4	老舗店舗	美容院	美容院				4	老舗店舗	神具店	小売店	
		5	老舗店舗	医院	医療				5	老舗店舗	書店	小売店	
		6							6				
		7	老舗店舗	美容室	美容院				7	老舗店舗	焼き鳥	飲食店	
		8	新規店舗	医院	医療				8	老舗店舗	美容院	美容院	
		9							9	老舗店舗	美容院	美容院	
		10	老舗店舗	奈良漬	小売店				10	老舗店舗	美容院	美容院	
		11		衣料品	小売店				11	老舗店舗	美容院	美容院	
		12	老舗店舗	薬局	医療				12	老舗店舗	美容院	美容院	
		13	老舗店舗	お好み焼き	飲食店				13	老舗店舗	美容院	美容院	
s	5	1	老舗店舗	酒店	小売店		s	6	1	老舗店舗	酒店	小売店	
		2	老舗店舗	衣料品	小売店				2	老舗店舗	衣料品	小売店	
		3	老舗店舗	衣料品	小売店				3	老舗店舗	衣料品	小売店	
		4	老舗店舗	衣料品	小売店				4	老舗店舗	衣料品	小売店	
		5	老舗店舗	神具・布製品	小売店				5	老舗店舗	衣料品	小売店	
		6							6	老舗店舗	靴	小売店	
		7	老舗店舗	土産屋	小売店				7	老舗店舗	靴	小売店	
		8	老舗店舗	靴屋	小売店				8	老舗店舗	靴	小売店	
		9	老舗店舗	昆布屋	小売店	(閉店)			9	老舗店舗	靴	小売店	
		10	豆屋	小売店		10			老舗店舗	靴	小売店		
		11	老舗店舗	スポーツ用品	小売店				11	老舗店舗	靴	小売店	
		12	老舗店舗	衣料品	小売店				12	老舗店舗	靴	小売店	
		13	老舗店舗	書店	小売店	(閉店)			13	老舗店舗	靴	小売店	
n	6	1	老舗店舗	神具店	小売店		n	7	1	老舗店舗	神具店	小売店	
		2							2	老舗店舗	神具店	小売店	
		3							3	老舗店舗	神具店	小売店	
		4							4	老舗店舗	神具店	小売店	
		5							5	老舗店舗	神具店	小売店	
		6							6	老舗店舗	神具店	小売店	
		7	老舗店舗	土産屋	小売店				7	老舗店舗	土産屋	小売店	
		8	老舗店舗	靴屋	小売店				8	老舗店舗	靴屋	小売店	
		9	老舗店舗	土産屋	小売店				9	老舗店舗	靴屋	小売店	
		10	老舗店舗	土産屋	小売店				10	老舗店舗	靴屋	小売店	
		11	老舗店舗	土産屋	小売店				11	老舗店舗	靴屋	小売店	
		12	老舗店舗	土産屋	小売店				12	老舗店舗	靴屋	小売店	
		13	老舗店舗	土産屋	小売店				13	老舗店舗	靴屋	小売店	
s	7	1	老舗店舗	土産屋	小売店		s	8	1	老舗店舗	土産屋	小売店	
		2	老舗店舗	土産屋	小売店				2	老舗店舗	土産屋	小売店	
		3	老舗店舗	土産屋	小売店				3	老舗店舗	土産屋	小売店	
		4	老舗店舗	土産屋	小売店				4	老舗店舗	土産屋	小売店	
		5	老舗店舗	土産屋	小売店				5	老舗店舗	土産屋	小売店	
		6	老舗店舗	土産屋	小売店				6	老舗店舗	土産屋	小売店	
		7	老舗店舗	土産屋	小売店				7	老舗店舗	土産屋	小売店	
		8	老舗店舗	土産屋	小売店				8	老舗店舗	土産屋	小売店	
		9	老舗店舗	土産屋	小売店				9	老舗店舗	土産屋	小売店	
		10	老舗店舗	土産屋	小売店				10	老舗店舗	土産屋	小売店	
		11	老舗店舗	土産屋	小売店				11	老舗店舗	土産屋	小売店	
		12	老舗店舗	土産屋	小売店				12	老舗店舗	土産屋	小売店	
		13	老舗店舗	土産屋	小売店				13	老舗店舗	土産屋	小売店	
n	8	1	老舗店舗	土産屋	小売店		n	9	1	老舗店舗	土産屋	小売店	
		2	老舗店舗	土産屋	小売店				2	老舗店舗	土産屋	小売店	
		3	老舗店舗	土産屋	小売店				3	老舗店舗	土産屋	小売店	
		4	老舗店舗	土産屋	小売店				4	老舗店舗	土産屋	小売店	
		5	老舗店舗	土産屋	小売店				5	老舗店舗	土産屋	小売店	
		6	老舗店舗	土産屋	小売店				6	老舗店舗	土産屋	小売店	
		7	老舗店舗	土産屋	小売店				7	老舗店舗	土産屋	小売店	
		8	老舗店舗	土産屋	小売店				8	老舗店舗	土産屋	小売店	
		9	老舗店舗	土産屋	小売店				9	老舗店舗	土産屋	小売店	
		10	老舗店舗	土産屋	小売店				10	老舗店舗	土産屋	小売店	
		11	老舗店舗	土産屋	小売店				11	老舗店舗	土産屋	小売店	
		12	老舗店舗	土産屋	小売店				12	老舗店舗	土産屋	小売店	
		13	老舗店舗	土産屋	小売店				13	老舗店舗	土産屋	小売店	
s	9	1	老舗店舗	土産屋	小売店		s	10	1	老舗店舗	土産屋	小売店	
		2	老舗店舗	土産屋	小売店				2	老舗店舗	土産屋	小売店	
		3	老舗店舗	土産屋	小売店				3	老舗店舗	土産屋	小売店	
		4	老舗店舗	土産屋	小売店				4	老舗店舗	土産屋	小売店	
		5	老舗店舗	土産屋	小売店				5	老舗店舗	土産屋	小売店	
		6	老舗店舗	土産屋	小売店				6	老舗店舗	土産屋	小売店	
		7	老舗店舗	土産屋	小売店				7	老舗店舗	土産屋	小売店	
		8	老舗店舗	土産屋	小売店				8	老舗店舗	土産屋	小売店	
		9	老舗店舗	土産屋	小売店				9	老舗店舗	土産屋	小売店	
		10	老舗店舗	土産屋	小売店				10	老舗店舗	土産屋	小売店	
		11	老舗店舗	土産屋	小売店				11	老舗店舗	土産屋	小売店	
		12	老舗店舗	土産屋	小売店				12	老舗店舗	土産屋	小売店	
		13	老舗店舗	土産屋	小売店				13	老舗店舗	土産屋	小売店	
n	10	1	老舗店舗	土産屋	小売店		n	11	1	老舗店舗	土産屋	小売店	
		2	老舗店舗	土産屋	小売店				2	老舗店舗	土産屋	小売店	
		3	老舗店舗	土産屋	小売店				3	老舗店舗	土産屋	小売店	
		4	老舗店舗	土産屋	小売店				4	老舗店舗	土産屋	小売店	
		5	老舗店舗	土産屋	小売店				5	老舗店舗	土産屋	小売店	
		6	老舗店舗	土産屋	小売店				6	老舗店舗	土産屋	小売店	
		7	老舗店舗	土産屋	小売店				7	老舗店舗	土産屋	小売店	
		8	老舗店舗	土産屋	小売店				8	老舗店舗	土産屋	小売店	
		9	老舗店舗	土産屋	小売店				9	老舗店舗	土産屋	小売店	
		10	老舗店舗	土産屋	小売店				10	老舗店舗	土産屋	小売店	
		11	老舗店舗	土産屋	小売店				11	老舗店舗	土産屋	小売店	
		12	老舗店舗	土産屋	小売店				12	老舗店舗	土産屋	小売店	
		13	老舗店舗	土産屋	小売店				13	老舗店舗	土産屋	小売店	
s	11	1	老舗店舗	土産屋	小売店		s	12	1	老舗店舗	土産屋	小売店	
		2	老舗店舗	土産屋	小売店				2	老舗店舗	土産屋	小売店	
		3	老舗店舗	土産屋	小売店				3	老舗店舗	土産屋	小売店	
		4	老舗店舗	土産屋	小売店				4	老舗店舗	土産屋	小売店	
		5	老舗店舗	土産屋	小売店				5	老舗店舗	土産屋	小売店	
		6	老舗店舗	土産屋	小売店				6	老舗店舗	土産屋	小売店	
		7	老舗店舗	土産屋	小売店				7	老舗店舗	土産屋	小売店	
		8	老舗店舗	土産屋	小売店				8	老舗店舗	土産屋	小売店	
		9	老舗店舗	土産屋	小売店				9	老舗店舗	土産屋	小売店	
		10	老舗店舗	土産屋	小売店				10	老舗店舗	土産屋	小売店	
		11	老舗店舗	土産屋	小売店				11	老舗店舗	土産屋	小売店	
		12	老舗店舗	土産屋	小売店				12	老舗店舗	土産屋	小売店	
		13	老舗店舗	土産屋	小売店				13	老舗店舗	土産屋	小売店	
n	12	1	老舗店舗	土産屋	小売店		n	13	1	老舗店舗	土産屋	小売店	
		2	老舗店舗	土産屋	小売店				2	老舗店舗	土産屋	小売店	
		3	老舗店舗	土産屋	小売店				3	老舗店舗	土産屋	小売店	
		4	老舗店舗	土産屋	小売店				4	老舗店舗	土産屋	小売店	
		5	老舗店舗	土産屋	小売店				5	老舗店舗	土産屋	小売店	
		6	老舗店舗	土産屋	小売店				6	老舗店舗	土産屋	小売店	
		7	老舗店舗	土産屋	小売店				7	老舗店舗	土産屋	小売店	
		8	老舗店舗	土産屋	小売店				8	老舗店舗	土産屋	小売店	
		9	老舗店舗	土産屋	小売店				9	老舗店舗	土産屋	小売店	
		10	老舗店舗	土産屋	小売店				10	老舗店舗	土産屋	小売店	
		11	老舗店舗	土産屋	小売店				11	老舗店舗	土産屋	小売店	
		12	老舗店舗	土産屋	小売店				12	老舗店舗	土産屋	小売店	
		13	老舗店舗	土産屋	小売店				13	老舗店舗	土産屋	小売店	
s	13	1	老舗店舗	土産屋	小売店		s	14	1	老舗店舗	土産屋	小売店	
		2	老舗店舗	土産屋	小売店				2	老舗店舗	土産屋	小売店	
		3	老舗店舗	土産屋	小売店				3	老舗店舗	土産屋	小売店	
		4	老舗店舗	土産屋	小売店				4	老舗店舗	土産屋	小売店	
		5	老舗店舗	土産屋	小売店				5	老舗店舗	土産屋	小売店	
		6	老舗店舗	土産屋	小売店				6	老舗店舗	土産屋	小売店	
		7	老舗店舗	土産屋	小売店				7	老舗店舗	土産屋	小売店	
		8	老舗店舗	土産屋	小売店				8	老舗店舗	土産屋	小売店	
		9	老舗店舗	土産屋	小売店				9	老舗店舗	土産屋	小売店	
		10	老舗店舗	土産屋	小売店				10	老舗店舗	土産屋	小売店	
		11	老舗店舗	土産屋	小売店				11	老舗店舗	土産屋	小売店	
		12	老舗店舗	土産屋	小売店				12	老舗店舗	土産屋		

は最下位) と非常に数を減らしている。神具小売店については、9軒と角論文から横ばいの数値を示しているが、表7に注目すると神具店は9店舗中8店舗が40年以上継続して営業を行う「老舗店舗」であることが分かる。表9では表7をもとに2013年から2018年の直近5年間における店舗構成の増減を示している。サービス業では天理市の産業振興館ができるなど新たな試みがあったが全体的にはどの業種も店舗数は減少傾向にあると明らかになった。また空き店舗・更地・不明の店舗数が39軒(+8軒)と大きく増加していることから、商店街全体が新規店舗を呼び込めない衰退傾向にあると考察できる。

4-2. 天理本通り商店街の空間的特徴

表7をもとに、天理本通り商店街における「新規店舗」や「老舗店舗」の配置⁽¹⁾と2013年から2018年における店舗の変容の様子をまとめ、図6に示す。表7及び図6から、天理本通り商店街では①や④を中心に信者向けの神具屋や土産屋が集積し長期的に営業していること、⑥は特に老舗店舗の割合が高いこと、②～⑥では教会本部に近づくほど老舗店舗の割合が増える傾向があることが読み取れる。

4-3. 天理本通商店街の歩行者へのアンケート調査

ここまでは空間的な分析から天理本通り商店街の特性を明らかにした。本章後半では現在天理本通りを利用する歩行者や、天理本通りで商業を営む経営者、従業員にヒアリング調査を行うことにより教勢衰退期に入って新たな変容を始めた天理の都市を多視点から分析する。

天理本通りを利用する歩行者に対するアンケート調査は天理教の特別なおつとめに当たる月次祭に合わせて実施した⁽¹²⁾。また、アンケート回答者の一部を対象に、追加でアンケートの回答理由についても調査した。アンケートの標本の詳細及び調査結果は図 6 と表 10 に示す⁽¹³⁾。調査結果から、天理本通り商店街は教会本部への参拝のために利用しているが店舗利用はほとんどしない人が3割程度いること、神具店や装束店などの宗教関連用品を扱う店舗の利用者は比較的高齢の信者が多いこと、信者が天理に帰参した際の土産として購入するものは昆布や地酒などの食料品が多く純粋な土産屋の利用は少ないこと、飲食店は幅広い年代が利用し若者の利用も多いことなどが明らかになった。

4-4. 商店主の視点で考察する天理本通り商店街

商店主の視点から教勢衰退期の天理本通り商店街の特性を考察する。天理では行事や祭典が定期的に開催され多くの信者が天理を来訪するため、行事中のヒアリング調査と通常時のヒアリング調査の双方を実施し考察を行う。

4-4-1. 天理教行事中の取り組み

行事中の店舗へのヒアリング調査は2019年のKOGに合わせて実施した⁽⁴⁾。ヒアリング調査の結果は表11に示す。調査結果から、行事中には普段取り扱わない商品を取り扱ったり(天理豆) いつもとは違う販売形式で売り上げを図ったり(牛又精肉店)と天理教行事に合わせて工夫を凝らし適応していく店舗があることが明らかになった。また、普段と比べて極端に売り上げが上がる店舗(岡本商店)も



図6 近年の天理商店街の変遷 及び アンケート調査・インタビュー調査の結果

表 10 アンケート結果(上位 15 項目)と回答者の構成

店名	商品	分類	計	具体の構成
吉川昆布	昆布	土産	9	50M×4人, 80F×3人, 20M, 60F
天理豆	豆	土産	6	80F, 50F, 20F, 30F, 80M, 40M
神具店	神具	宗教関連	6	60F×2人, 70M, 40M, 50M, 80M
ふじや靴下	靴下	日用品	5	30F, 50F, 70F, 60F×2人
Books道友	宗教関連書籍	宗教関連	5	70M×2人, 80F, 40M, 50M
Caramel Market	クレープ等	飲食店	5	20F, 30F, 20M, 16F×2人
びっくり焼き	大判焼き	土産	4	70F, 30F, 80M, 15F
天スタ	ラーメン	飲食店	4	70M, 20M×2人, 18M
まんぷく堂	唐揚げ	飲食店	4	17M×2人, 18M, 60F
ダイソー	生活用品	日用品	4	20F×2人, 16F×2人
天理袋物	かばん	日用品	3	40M, 70M×2人
稲天	奈良漬・酒	土産	3	70F, 20F, 60F
装束	装束	宗教関連	3	70M, 50M, 60F
味とらうく	たこ焼き等	飲食店	3	40M, 20M, 16F
フジエィ堂	古本	日用品	3	50M, 50F×2人

表 11 行事 (KOG) における商店街店舗従業員へのヒアリング結果

店舗名	店舗の種類	調査日時*	ヒアリング内容
味どおらく	たこ焼き屋	4 日 19 時 40 分	今日はすごい出た。いつもの平日の 10 倍以上はお客さんが来ていた。
牛又精肉店	精肉店	4 日 15 時 53 分	(店頭でブースを広げていた) フライドポテトとアメリカンドッグの販売は KOG 期間中だけなので今日で終わり。店内の他の商品については普段と売り上げの変化はない。
天理豆	豆菓子屋	4 日 16 時 07 分	店先に並ぶ奈良県のお土産は KOG に合わせて仕入れた。KOG 後もしばらくはお土産は店頭にあるまま並べる。いつも来ていた大人は天理豆などもともと店で取り扱っている商品を買うことが多いが KOG 期間の売り上げは臨時で設置した奈良県のお土産が多くを占める。
稲天	酒店	5 日 10 時 38 分	KOG 期間はやはりいつもより多くのお客さんが来る。平日でも普段の土日よりも多くの客が来る。奈良漬を親に頼まれていたり、引率の大人と一緒に来て引率の人に頼んで家族にお酒を買う子供も結構いる。お客さんはリピーターが多いです。
岡本商店	土産屋	3 日 15 時 48 分	(客入りに関しては) もう最終日に近いので KOG 期間始めの土日と比べると子供の数は少ない。普段の土日と比べたらとても多い。100 倍くらい。

* 調査は全て 2019 年 8 月に立ち聞き形式にて実施した。

表 12 通常時の店舗に関するヒアリング結果

天理スタミナラーメン本通り店*	SUP**
月次祭の時以外はほとんど本通りに入通 りはない。行事・祭典・月次祭の時だけ 活気があるし人の入りもいいが、他の日 は土日祝日でも多くはない。本通り店は 8 年前にオープンした。その頃と比べて もやはり天理教関連の信者は減って来て いると思う。開業当初は客入りもほとん どなくて大変だったが本店や屋台など他 の店舗にないメニューを開発するなどの 工夫をするようになって最近やっと客が つくようになって来た。土日は参拝する 方が利用するだけでなく、スタミナラ ーメンや店舗限定のメニューを食べること だけを目的にここにお客さんが来てくれ るようになった。やっと軌道には乗って 来た感じはあるが油断はできない。	メインのお客さんは天理大学の学生や りではない。行事・祭典・月次祭の時だけ は祝日なのでお客さんは少ない。おつ とめに参加する信者はおつとめが目的 で教会本部にきているので、タツとめ の前後でいっぱい飲み仲間たちで 集まって利用する場合もある。Wi-Fi や コンセントもあるので学生が 3 個 200 円の唐揚げだけ注文して作業をするみ たいな利用のされ方もある。オーナー はもとも IT 系のベンチャーの会社を 持っている人。ふらっと多くの人が立 ち寄って利用してくれればという考え でお店をオープンしたと聞いている。

*2019 年 10 月 22 日 18 時 44 分 店長のヒアリング調査より作成

**2019 年 10 月 22 日 18 時 12 分 店員への立ち聞き調査より作成

あり、商店街の店舗の中には天理教の呼び込む信者に依存して営業を行う店舗も未だ多くあると考察できる。

4-4-2. 通常時の取り組み

次に、通常時の天理本通り商店街の特性を考察する。4.1. より近年の天理本通りでは飲食店の業種別構成割合が大きくなっていることに注目して、飲食店へのヒアリング調査を実施した⁽¹⁵⁾。ヒアリング調査の結果は表 12 に示す。調査結果から、天理本通りに面するという立地だけでは飲食店は客を集められない現状が明らかになった。通常時はなかなか客を集めるのが難しいため、限定メニューの開発 (天理スタミナラーメン本通り店) や作業スペース等として利用されるような店舗環境の整備 (SUP) など、独自の工夫を凝らしていると判明した。

4-5. 小結論

4 章前半では商店街の店舗構成の変容や商店街におけるゾーンごとの店舗の集積、変容の様子を考察した。信者過多期に発展を始めた商店街は、都市発展期中盤には中心商店街としての役割を担っていた。都市発展期後半から教勢衰退期の現在にかけては、神具店など宗教に密に関係する店舗は老舗店舗を中心に継続して営業を続ける一方で、土産屋などの天理教に依存した一部業種は教勢の衰退に伴って店舗数が顕著に減少した。都市発展期から開発が進んでいた回では老舗店舗を中心に土地に根ざした営業が行われている一方で、回～回では空き店舗化が目立ったり駅から遠ざかるにつれて店舗の代謝が悪くなったりと、都市の中心性が本来の中心地である教会本部から一般の都市同様の駅周辺へと移り変わっていると考察できる。

4 章後半ではヒアリング調査を通して商店街の変容を分析した。天理本通り商店街歩行者へのヒアリングでは神具店など宗教関連店舗を利用する若者は少ない一方、飲食店や特産品を扱う食料品小売店は幅広い層から支持を集めていた。事業者へのヒアリングでは、通常時は天理本通りという立地だけで商売を成り立たせるのは難しいが、天理教行事の際には普段の営業形式を変えてでも帰参者に適応した取り組みを行う店舗も多く、未だに宗教都市としての影響力は健在であることも明らかになった。

5. 結論

5-1. まとめ

本研究は、①天理の都市変容の時期区分とその特徴を明

らかにすること、②天理教の衰退に伴う中心市街地の近年の特徴を明らかにすること、の 2 点を目的に行ったものであり、得られた知見は以下の通りである。

①について、第二次世界戦争が起こった 1940 年ごろと、天理教内では教祖 100 年祭、世間ではオウム真理教地下鉄サリン事件が起こった 1990 年ごろに、それぞれ信者数の急激な増減やそれに対応する信者詰所、お供え金の金額の変化の挙動が見られることから、天理の中心市街地の変容は、1940 年ごろと 1990 年ごろを境に、三つの時期区分に分かれると明らかになった。

都市の誕生から戦前まで (第一期：信者過多期) では帰参者を集め始めた都市の宗教資源に事業者も集まり、教団と民間の両側面から宗教都市が発展した。戦後から 1980 年頃まで (第二期：都市発展期) では都市そのものの発展に伴って、一般の都市に必要な施設や店舗が都市の中に組み込まれていった。非信者も天理の都市を利用するようになると、信者と非信者が共生する複合的な都市となった。1990 年頃から現在まで (第三期：教勢衰退期) では宗教に依存する形態で営業する事業者は経営が行き詰まり、信者であるかという属性に関係なく、施設を利用してもらえるような新しい試みが目立つようになってきた。

②について、宿泊施設へのヒアリング調査では、市内の天理教関連施設を目的に来訪する宿泊客もいるが、奈良県の観光やビジネス利用など天理教とは直接関係しない宿泊客も多いことが明らかになった。商店街に関するヒアリング調査では、商店街利用者の視点から飲食店や特産品の土産などを扱う店舗は幅広い世代が利用する一方で宗教関連店舗は若者の利用が少ないこと、事業者の視点から行事や祭典の際は宗教都市の恩恵を多く受けられるが通常時にはそうではないことが明らかになった。天理教の衰退に伴い、天理教信者に依存した事業者の存続は難しくなっているため、近年の中心市街地は、行事や祭典の際に来訪する帰参者の消費活動など、今ある宗教資源は活かしながらも、通常時は信者・非信者関係なく一般に開けた市街地へと変容していることが明らかとなった。

5-2. 今後の展望

現在の天理では、宿泊施設や飲食店などの民間の事業者は、信者に依存しない営業形式に適応しつつある。しかし、それらは各事業者の範囲でできる工夫にとどまっている。宗教施設が面的に広がる天理市では、今後天理教がさらに

衰退すると、宗教施設などの使用率も落ちていくと推測できる。宗教に依存しない都市づくりを進めるためにも、民間の事業者と天理教との協力などによって、都市に溢れる宗教施設の空間資源活用を含めた宗教と非宗教の共生方法を模索していくことが重要になるだろう。

5-3. 今後の課題

本研究に関する都市変容の指標は、鉄道や病院などのハード面に関する検討にとどまっている。今後の課題として、自治体が行う都市計画事業や、天理の都市発展に伴う市民の増減などの観点から、都市の変容の特徴を把握することが挙げられる。

謝辞 インタビュー・アンケート調査に協力していただいた事業主、従業員及び市民の皆様に感謝する次第である。

【注釈】

- (1) 文献 1) の 523 頁では宗教を核とする都市（宗教施設）として伊勢（伊勢神宮）、長野（善光寺）、成田（成田山新勝寺）が天理教と並んで示されている。
- (2) 文献 1) や文献 8) に示すように、天理市は宗教を核として発展した門前町と言える。
- (3) 参考文献は図中に示している。1946 年以前の信者数については a~h に示した年と信者数の数値を滑らかに繋いだ曲線を信者数の推測値として図中には示している。
- (4) 参考文献である『改訂 天理教辞典 教会史篇』の出版された 1989 年までに大教会になっていた 152 教会について、詣所の新設や移転に関する記述を数え、5 年毎に集計した。（1990 年のグラフのみ 1986 年～編集期間までの 5 年より短い期間における数値を示している。）
- (5) 文献 11) の 315 頁より、オウム真理教の無差別テロ以後、オウム真理教に限らず全ての新宗教に対して世間の警戒心が強まっている。
- (6) 1953 年 4 月に教会本部を統理する役職の 2 代目真柱が発表した「おやさとやかた構想」によって計画され一部建設が行われた、天理教教会本部を囲う約 872 メートル四方の巨大宗教建築群のこと。
- (7) 天理教公式ホームページ(<https://www.tenrikyo.or.jp/yoboku/otsutome/>)にて「おつとめ」について「天理教における最も重要な祭儀で、たすけ一条の道の根本の手だてです。」と記載されている。
- (8) こどもおちばがえり Official Site 「成長一泊まる」、<https://kodomo-ojibagaeri.com/growth/stay> 参照。
- (9) 2019 年 11 月 25 日に天理市役所前にて立ち聞き調査で実施した。
- (10) 業種は文献 7) に準じた。空き店舗等は住宅地図に示された土地区画をもとに計数した。装束店（2 店舗）は神具店ではなく衣服小売店に分類した。
- (11) 「老舗店舗」「新規店舗」は表 7 で定義するように、2013 年時点で 40 年以上継続して営業する店舗、10 年以内に新規出店した店舗をそれぞれ指す。
- (12) 2019 年 11 月 25 日、26 日に天理本通りを歩く帰参者に対して立ち聞き形式で「天理本通りの好きな店、よく使う店」を訪ねるアンケート調査を行なった。147 分間の調査で計 104 の標本を得た。
- (13) アンケートの標本の内訳は図 6 の上部、主なアンケート結果は表 10、追加のインタビュー調査の回答は図 6 の実際の店舗付近にそれぞれ示す。
- (14) こどもおちばがえり(KOG)は毎年夏に行われる行事である。（2019 年までは毎年 7 月 26 日から 8 月 4 日に行われていたが、2020 年からはパレードの終了、8 月 2 日までへの期間の短縮と規模が縮小した。）本研究では 2019 年 8 月 3 日から 5 日にかけて、KOG に向けた取り組みが見られた店舗に立ち聞き形式のヒアリング調査を実施した。
- (15) ヒアリング対象は教勢衰退期に新規開店し天理本通りに定着した店舗として「天理スタミナラーメン本通り店」、2017 年 4 月開業で商店街の飲食店の中では歴史の浅い店舗として「SUP」をそれぞれ調査対象に選定した。

【参考文献】

- 1) 松井圭介 (1993): 日本における宗教地理学の展開、『人文地理』第 45 巻第 5 号、75-93 頁
- 2) 対馬路入・西山茂・島藺進・白水寛子 (1979): 新宗教における生命主義的救済観、『思想』第 665 号
- 3) 伊藤郷平・梅田幸房 (1967): 宗教都市の分析法試論 ―天理市を事例として―、堀井先生停年退官記念会編『奈良文化論叢』、堀井先生停年退官記念会、515-527 頁、
- 4) 桑原公徳 (1970): 宗教都市としての天理市の性格―町村合併促進法施行後都市タイプとして―、花園大学研究紀要 創刊号、45-82 頁
- 5) 藤巻正己 (1994): 宗教都市「天理」、山田安彦・山崎雄哉『歴史のふりかへる都市群・7』、大明堂 146-158 頁
- 6) 西田秀雄 (1967): 詣所の地理学的研究―本願寺と天理教の場合―、堀井先生停年退官記念会編『奈良文化論叢』、堀井先生停年退官記念会、515-527 頁
- 7) 角克明 (2009): 宗教都市における中心市街地の特性と業種別店舗構成の変容、総合教育研究センター紀要(8)、21-38 頁
- 8) 藤本利治(1970)『門前町』、古今書院
- 9) 五十嵐太郎(2001)『新宗教と巨大建築』、講談社新書
- 10) 石坂愛 (2016): 天理市における教団と地域住民間の土地利用をめぐる諸相、E-journal GEO Vol.11(1)、299-315 頁
- 11) 小高良友 (2007): 内務省による宗教弾圧：創価学会の場合を事例として 東海女子大学紀要 26、85-93 頁
- 12) 島田裕巳 (2008): 新宗教批判の歴史的変遷：天理教、創価学会、オウム真理教を事例に、『宗教研究』82 巻 2 号、293-316 頁
- 13) 北尾鏡之助 (1931)『近畿景観』第 2 編大和河内、創元社、173 頁
- 14) 西田和夫 (1961): 天理市の発展とその現状、奈良女子大学地理学教室、342-347 頁